

第 2 1 回新五流総フォローアップ委員会 議事要旨

日 時：令和 6 年 9 月 1 1 日（水）

1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

場 所：岐阜市藪田南 1 - 1 1 - 1 2

岐阜県水産会館 2 階 中会議室

I. 議題

（１）委員会規約の改正について

（２）地域委員会の報告について

１）長良川流域

２）揖斐川流域

３）木曽・飛騨川流域

４）土岐川流域

５）宮川・庄川流域

（３）新五流域総合治水対策プランの進捗報告について

１）ハード対策について

河川改修関係

耐震化

長寿命化

魚道点検関係

２）ソフト対策について

（４）新五流域総合治水対策プランの改定に向けて

II. 議事の概要

(1) 委員会規約の改正について

事務局から説明があり了承された。委員会規約を改正し当日付けで施行した。

(2) 地域委員会の報告について

事務局から説明後、質疑応答や意見交換がなされた。主な内容は以下のとおり。

○揖斐川流域浸水被害

【原田委員】

令和 6 年 8 月の浸水被害直後に開催された地域委員会において、市町村側から今回の出水に関する受け止めや改修促進等の意見を詳しくご紹介いただきたい。

【大垣土木】

地域委員会において市町村から改修促進に関する発言はなかった。

○環境整備

【林田委員】

環境整備は、川ごとの長期的な整備プランがありその中から必要に応じて選択して実施しているのか、毎年度整備できそうな箇所を個別に判断しているのか、環境整備における基本的な進め方について教えていただきたい。

【河川課企画環境係】

概ね 10 年単位で各川の着目ポイントを決め、環境に配慮した整備を行っている。

【林田委員】

河川改修の整備効果の評価方法は何か。

【河川課改良係】

整備の効果の評価方法は、整備前後の水位低下をシミュレーションにより想定し、実際の水位変化と照らし合わせて、評価している。

○大島ダム

【西條委員】

大島ダムの進捗は、どの程度か。また、必要性の見解をお聞かせいただきたい。大島ダムの建設に向けた環境調査や基礎調査は 20 年近く前のものであり、現状にそぐわない可能性がある。また、国との連携状況や地域委員会での議論の状況も含め、県の考えをお聞かせいただきたい。

【高山土木事務所】

大島ダムは、必要性について検証しているところである。検証結果を踏まえ、地元と協議を進める段階である。

【河川課改良係】

全国一律のダム検証という国の方針に基づき検証を継続しているところである。

○森林環境

【西條委員】

山林管理は、ダム機能に寄与するが、林政による山林管理や切捨て間伐により、かえって山が荒れる原因になることがある。河川と林政でより密接な連携をお願いしたい。

【河川課】

承知した。

(3) 新五流域総合治水対策プランの進捗報告について

事務局から説明後、質疑応答や意見交換がなされた。主な内容は以下のとおり。

○進捗管理

【原田委員】

進捗が悪い河川の原因を分析し、対策を講じる必要がある。特に、用地取得や橋梁架替がネックである場合、打開方法や、他河川を先行させるなど、柔軟な対応も検討すべきである。現時点でそうした対策に関しての考えを伺いたい。

【河川課企画環境係】

優先順位は、検討中である。

【原田委員】

過去 10 年の振り返りを踏まえ、状況に応じて柔軟に対応できる仕組みの導入を望む。

【藤田委員長】

今後は実効性のある取り組みがさらに進むことを期待している。

【河川課】

河川改修は、原則として下流から進めるが、それが理由での進捗停滞を避けるべきである。上流からの改修が問題ない事例もあるため、柔軟に検討する。

○河川構造物の長寿命化

【高見委員】

築年数の長い大規模河川施設に具体的な計画はあるか。また、山田川排水機場の管理運転や状態監視の検討が進められていると聞いているが、進捗状況はどうか。

【河川課維持係】

築年数の長い大規模河川施設は、良好に稼働している。老朽化が進行している旧水門川排水機場は国管理の新水門川排水機場との統合・完全更新が進行中である。新施設完成までの間は、旧施設のポンプを長寿命化対策により維持・運用している状況である。

管理運転は、ポンプメーカーとも協力して傾向管理を進めている。また、運転状況を視覚的に比較・把握できるシステムの導入や平常時の正常動作確認による本番稼働時の信頼性向上等、管理運転と状態監視の体制は着実に進展している。

(4) 新五流域総合治水対策プランの改定に向けて

事務局から説明後、質疑応答や意見交換がなされた。主な内容は以下のとおり。

○制度改正

【原田委員】

この10年間で技術や法制度が進展し、新たな制度の活用が進んでいる。今後は、特定都市河川浸水被害対策法など国の新制度も含め、岐阜県内で利用可能な制度を積極的に活用しながら、次の10年に向けた対応を進めていくべきである。

【河川課】

承知した。

○環境目標

【原田委員】

国の環境目標に対する方針に対応しつつ、過去10年間の河川整備の実績や課題を振り返りながら、各河川の目標見直しやアップデートを進める必要がある。

【林田委員】

環境面での関係者や職員の意識低下が顕著であり、職員の意識向上が重要である。自然共生研究センターとの連携を強化し、職員研修に取り組んではどうか。

【藤田委員長】

揖斐川地域委員会では、委員からネイチャーポジティブを意識しないといけないという意見があった。配慮だけでは不十分という段階に来ている。

【河川課】

承知した。

以 上